

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 2 月 29 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生 1 年
氏名	榊原香鈴美

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
日本、東静岡
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
国際シンポジウム参加
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 2 月 26 日 (1 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
東海大学創造科学技術研究機構、特任講師 森阪匡通 氏
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>本出張では、東海大学で開催された国際シンポジウム「ガンジスカワイルカ」に参加・発表し、海棲哺乳類研究の知見を深めた。インドよりいらしたスニル・チョーダリ 氏 (T.M.バーガルプル大学植物学部) とナチケット・ケルカー 氏 (アショカ生態学環境研究基金 ATREE) の講演では、ガンジスカワイルカをとりまく自然環境と人間活動との関係について細かく知ることができた。ガンジスカワイルカの保全活動に対する行政の取り組み姿勢と現場の研究者や調査の様子を聞き、日本の研究者の技術提供によるガンジスカワイルカの生態調査の進歩への寄与に対する期待が非常に高まった。また、沼田町化石館の田中嘉寛さんは、国際シンポジウムで分野も言語も異なる聞き手が混在する中で、話を理解してもらうプレゼンテーションのよいお手本を示してくださった。日本人の参加者が多いということもあり、英語と日本語を合わせたスライドをつくり、さらに専門用語に関してはなるべく言い換えをおこなうというシンプルな解決策を徹底することで、相手に伝わる内容量が大きく異なることを実感した。これにより、発表後の質疑応答も非常に活気があり有意義な発表であった。自身の発表にも応用を試み、国際シンポジウムにおける発表の質を向上させたい。そのほか、粕谷俊雄先生をはじめ、鯨類研究の先輩方から話や発表に対するコメントをいただいたことも非常に参考になった。</p>
<b>6. その他</b> (特記事項など)